



Operations Support Services Office
by Persons with Disability

京都大学業務支援室

NEWSLETTER TU·NA·GA·RU

2025.1
No.07



特集「京大らしい仕事」国際会議運営補助（2-3 ページ関連記事）

- 特集「京大らしい仕事」国際会議運営補助・・・2
- 就労支援フォーラム NIPPON2024・・・6
- 京大を知る！京大を発信する！11月祭レポート 4
- リレーエッセイ「働くこと」〈3〉・・・7
- 新任職員の紹介・・・6
- 私のリフレッシュ方法〈2〉・・・8
- 京都大学職場・仕事説明会の開催・・・6
- お知らせ・・・8
- 業務体験・面談会の開催・・・6
- 4コマ漫画「ポコ・ア・ポコ」②・・・8

特集：「京大らしい仕事」

社会には障害のある人の仕事について、軽作業や清掃、事務補助などに限定されたイメージがまだまだ根強くあります。実際には専門的なスキルや能力があり、仕事に対する価値観を大切に仕事を選び、自分が考える適職で働くことを大切にしている人が多くいます。今号では「京大らしい仕事」として、本学の教員からの依頼で業務支援室の室員が従事した国際会議の運営補助業務を特集します。

国際会議 運営補助

生存圏研究所附属生存圏未来開拓研究センターの上田 義勝先生からの依頼で、2024年10月9日から12日まで、本学宇治キャンパス・おうばくプラザにて開催された第533回生存圏シンポジウム「Nanobubble2024」の運営補助を業務支援室が担当しました。業務支援室宇治分室の室員・指導員と吉田キャンパスからも室員が数名交代で、運営スタッフと共同で業務にあたりました。

業務支援室が担当した業務

※ 業務支援室のみで業務を行い、それ以外の業務は運営スタッフと共同で行いました。

抄録原稿体裁のチェック ※

- ・抄録原稿をフォーマット（フォントや著者名の書き方など）に沿って修正する

受付補助

- ・受付後の参加者にバッグセットを配布する

弁当配布

- ・参加者に弁当と飲料を配布して、ゴミ捨て場の案内をする

来賓対応

- ・来賓を部屋へ案内する

バンケット対応

- ・食事スペースのテーブルへ飲み物や菓子などを補充する

写真撮影

- ・会場と周辺の様子を終日撮影する
- ・発表終了時に発表者と主催者の記念写真を撮影する

配布物のセットと確認

- ・記念品を専用袋へ入れる
- ・参加者へ配布するバックセット（京都大学エコバッグ、学会冊子、学会記念品4点、パンフレット3種）を準備する

名札準備

- ・名札と3日間のランチチケットをネックストラップに格納する

会場設営

- ・講演会場の机などを配置する
- ・ポスター会場に展示用パネルを設置、展示物を貼り付ける
- ・懇親会会場の机などを配置する

会場対応 ※

- ・会場の音響・照明を調整する
- ・発表後の質疑応答でマイク受け渡しをする

その他 ※

- ・終了後のゴミの分別と廃棄

指導員のコメント

宇治分室が開設した年に国際会議の運営補助の業務依頼があり、依頼元の上田先生とは数回の打ち合わせを重ねました。学会の事前準備と当日の運営補助業務には、宇治分室の室員3名と、吉田キャンパスの室員が交替で5名前後宇治まで出張し対応しました。

開催初日は、普段の宇治分室のルーチン・スポット業務とは異なり、国内外の多くの方々と共同（協働）であり、日本語がほとんど聞こえてこない会場の雰囲気にも圧倒されました。室員の多くがおうばくプラザ内へ初めて入るという状況で、また、流動的な業務ということで、室員達からは緊張や心配の声も上がっていました。しかし、実際に業務が始まると室員それぞれが自ら考えて動き、イキイキと業務にあたっている姿を目の当たりにして、各室員が持っている力や可能性を実感しました。室員の障害特性はそれぞれ異なりますが、初対面であること・流動的なこと・対人コミュニケーションが苦手であることを感じさせない動きでした。

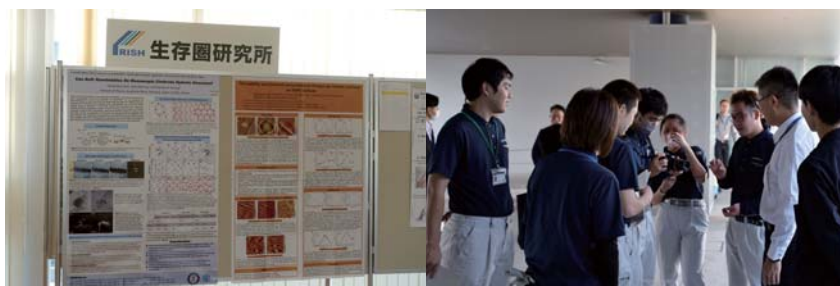
今回の業務は室員と指導員共に成長の機会になりました。

（宇治分室指導員 熊谷 真由美）



室員の感想

- K.R. 「Nanobubble2024」の抄録原稿をチェックしてフォーマット（フォントや著者名の書き方など）に沿った形に修正しました。事前準備では来場者に配布物（資料、パンフレットおよび記念品）のチェックをしました。会場設営では受付に使用する机や椅子を倉庫から運搬して会場に配置しました。配布物や食品の運搬もしました。当日は来場者に弁当・飲料を渡し、ゴミ捨て場の案内などしました。当日は講演中に質問者へマイクの受け渡しをしました。誰の番なのかを一瞬で把握した上で、低い姿勢で素早く移動するように心がけました。またホール後方2階にある調整室で、スポットライトの光量とマイクの音量の調節をしました。総合的に、吉田キャンパスからの出向の室員とは連携が出来ていたと思います。運営スタッフの指示を逐次あおぐ必要があったので、少しテンポが良くなかった感じでしたが、おおむね先方の指示をよく理解して行動出来ていたのではないかと思います。運営スタッフや来場者など大勢の外部の方と接することとなりましたが、私の声の大きさや歯切れの良さについては今一つだったと感じています。
- S.R. 業務は、案内板制作、掲示板の設置、会場設営、当日の弁当の配布、食べ終えた弁当箱の回収とゴミ出しを担当しました。海外からの参加者と英語でのコミュニケーションが難しかったです。
- U.Y. 事前に学会資料やタイムスケジュールを理解して、全体の動きを把握しながら業務に従事することが出来ました。手応えがあったことは、写真撮影を担当して学会の記録の作成等に役立てたことです。運営スタッフである学生と連携やコミュニケーションを取ることが出来なかったことは反省点です。
- U.S. 宇治に出向して2日間「Nanobubble2024」の業務に携わりました。最初はとても緊張しましたが、担当した写真撮影に取り組んで行くうちに集中することが出来ました。世界各地の研究者が来ている中での業務は初めてでしたが、いい経験と刺激になりました。
- H.K. 初めての業務でマイクの担当をして、最初はわからないことだらけでなかなか上手くいかない時もあったけれど、少しずつ慣れて自分から積極的に動けるようになりました。貴重な体験でした。



依頼者のコメント

国際会議の事前準備から当日の運営、また撤収後の最後のサポートまで担当して頂き、大変感謝しています。今回の国際会議は、業務支援室の皆様がいたからこそ、大成功を収めることが出来ました。本当にありがとうございました。

私自身、子どもが特別支援学級に通っており、時折特別支援学級での活動を見る機会があります。特別支援学級にいる生徒さんも、個々に違いはありますが、それぞれが得意とする分野を持っています。誰でもそうですが、自分ができることに自信を持って取り組む姿は、やはりカッコいいです。

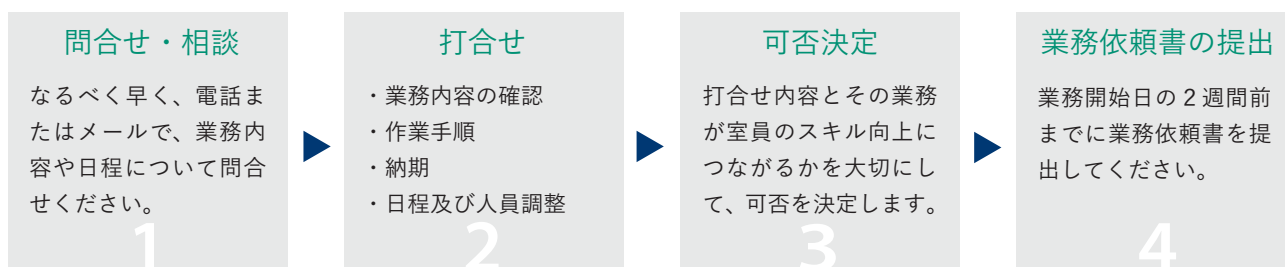
今回のサポートでも、業務支援室の皆様の得意分野が何かなるべく考えつつ、その都度用務をお願いいたしました。また、依頼時には、できるだけその内容を正確に伝えることを心掛けました。それでも私自身、慌ただしく不備が多かったかと思いますが、熊谷さんをはじめ、指導員の皆様にも支えていただき、おかげで安心して依頼することができました。皆様のサポートのおかげで、最後まで会議運営を無事に終えることができました。

海外からの参加者が半数以上を占め、会場にて英語で話しかけられる場面もあったかと思うので、皆さん緊張もされたことと思います。それでも、文化祭のような感覚で少しでも楽しく作業していただけていたら幸いです。（生存圏研究所附属生存圏未来開拓研究センター 助教 上田 義勝）

業務支援室への業務依頼の流れ

詳細は学内専用サイトをご確認ください

<https://jinji.adm.kyoto-u.ac.jp/adm/category/gyomushienshitsu>



業務支援室では、障害のある職員の専門的なスキルや能力を活かせる「京大らしい仕事」の拡充のため、本学の研究科や研究施設との連携強化を進めています。

「京大を知る！京大を発信する！」室員による京都大学 11 月祭 (NF) レポート



本学の教職員からの業務依頼で様々な部署へ出向もしている室員達ですが、意外と大学行事や学生達と関わる機会はありません。そこで、「京大を知る！京大を発信する！」として、本学の学生の一大イベントである 11 月祭 (NF) について室員レポートを実施しました。室員それぞれが興味のあるイベントを実際に体験して、京都大学の不思議と魅力を彼らの言葉で発信します。

室員
O.G.

古代ローマ料理と小泉悠先生の講演



まず、本部構内 8 号館の京大日本史愛好会・京大歴史研究会・ビザンツ帝国同好会の展示を見ました。中世日本や古代中東等の書籍等がありました。またアンケートにも答えました。その後、吉田南構内へ行き、模擬店で古代ローマの味を再現したという「プルス（うるち麦を使った古代ローマ風リゾット）」と「古代ローマ風牛ステーキ（ブドウ果汁とオリーブオイルで漬けた牛肉）」を買って食べました。味はシンプルですが、牛肉は結構甘く、リゾットもスパイスの風味がありました。古代ローマでは香辛料が多用されていたようで、しっかりと味が付いていました。

模擬店で小泉悠先生（東京大学先端科学技術研究センター）の講演の整理券がもらえたので、土曜日の講演に行きました。元々、先生の SNS は拝見したことがあったのですが、想像以上にお話が上手だと思いました。来年はサークルの出版物にも手を出してみようと思いました。

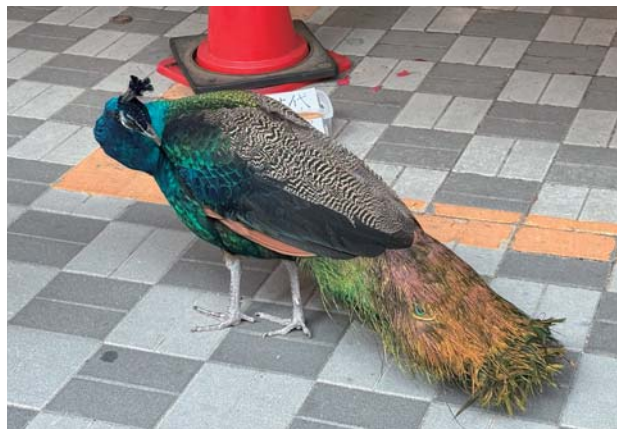
室員
O.K.

京大の 11 月祭を取材 !!

11/21 は、（北部構内で）馬術部の馬の餌やりの体験をしました。結構人懐っこい馬だったので、にんじんをあげました。

11/22 は、吉田南構内でゴイゴイスーというバンドメンバーが弾いている曲を座って聞きました。音楽では京大アカペラクラブも聞きました。ライブで一緒に盛り上がっている時に掛け声をしたのが少しストレス解消になりました。模擬店で、そばまきという焼きそばみたいなものを巻いたものを食べました。とてもモチモチしていて美味しかったです。また、京大クジャクも外に出ているので、クジャクに餌をあげる体験をしました。小松菜を挙げたのですがお腹いっぱいそうでした。昼からは、クスノキ前で書道パフォーマンスを見た後、おまつり広場で私の好きなアニメのコピーダンスを見ました。

とても充実した二日間でした。



室員
A.M.

手芸サークル



私は手芸サークルに行きました。ビーズを使った簡単な手芸を体験をしました。大学生に教えてもらいながらしました。アルファベットが中々見つからない時は、大学生と一緒に探してくれました。すごく楽しかったです。1個 200 円で体験が出来ました。手作りの編み物が展示されていて私には作れない作品がたくさんありました。また、体験会があったら、やってみたいです。

室員
M.M.

興味関心に惹かれた冒険



ミュージカルが好きで興味があったので、ミュージカルカフェにレポートをしに行ってきました。頼んだココアオレが美味しかったです。ミュージカルもノリノリでして、世界観に入り込めて楽しかったです。

その他にも蛇が触れると聞いたので興味があり、19 年間で初めて蛇に触り、首に巻いて、貴重な体験をしたなあと感じました。可愛かったです。その後、コナンカフェにも行きました。パフェが美味しかったです。



室員
K.K.

対決！京大王

文学部新館第 4 演習室で開催された京都大学クイズ研究会 Mutius の「対決！京大王」に参加しました。クイズ番組をもとに企画された事を知り、興味深かったので、クイズ大会に参加しました。予想に反して出題数が多かった点と京大生とのコミュニケーションがあった点に驚かされました。時事問題を中心に「勉強の秋」になったので、良かったと思います。

参加型のイベントは、かねてから希少価値が高いと思っていたので、参加出来て幸いでした。



室員
H.K.

鉄道研究会の展示

鉄道研究会の展示を見に行きました。ジオラマのクオリティーが高く凄いなと感じました。N ゲージを走行させたり、色んな鉄道模型を見たりして楽しかったです。



室員
K.A.

京風ぜんざい

京都大学の学祭に初めて行きました。人出も多く活気に満ちていました。甘いものを食べようと思っていたら、京風ぜんざいを売っている学生にすすめられ、200 円という安さもあり食べることにしました。お餅も意外と大きく、小豆もたくさん入っていて、甘くておいしかったです。

新任職員の紹介

平山 聡 (指導員 部局相談・採用担当)



この度、2024年10月1日付けで、業務支援室に指導員として着任しました、平山 聡（ひらやま さとし）です。私は、これまで、単科の精神科病院と精神科デイ・ケア施設に作業療法士として勤務し、定年を迎える年になりましたが、就労や復職、復学、社会参加を目指してリハビリテーションに取り組んでいる方が、いかに就労の場で永くやりがいを持って働き続けることができるかという課題について、今度は、就労されている方々と共に働きながら考えていきたいと思ひ、この業務支援室に参りました。これまでの経験も活かしつつ、私の残りの就労生活でこの課題への確かな答えが一つでもたくさん見つければと思っています。よろしくお願いいたします。

障害者雇用の促進

「京都大学職場・仕事説明会」の開催

2024年11月5日、本学の吉田キャンパス(本部構内)にて、就労支援機関向け「京都大学職場・仕事説明会」を開催しました。午前10時から午後3時からの2部入替制として実施、就労支援機関16機関、本学の採用予定部局10部局、その他関係者を含めて延べ80名余りの参加がありました。

始めに、京都大学の障害者雇用について業務支援室の取り組みを中心に説明がありました。その後、本学で働く障害者雇用職員より、担当業務や職場環境について話がありました。続いて、採用予定部局担当者より、「求人要項・職場紹介シート」をもとに、業務内

容や職場環境などの詳細について説明がありました。最後に、採用予定部局に就労支援機関の支援員が個別に質問する時間を設けました。担当者と直接やり取りする中で、働く側、雇う側の双方が、職場と求職者本人のよりよいマッチングを考える機会となりました。

今回の「京都大学職場・仕事説明会」に続く次のステップとして、12月に「業務体験・面談会」(下記)を開催しました。

(会場設営や参加者誘導、PC・プロジェクターなどの機器操作は当室の室員が業務として担当しました。)

「業務体験・面談会」の開催

当室主催の「業務体験・面談会」では、本学の採用予定部局と、就労支援機関に通所している障害のある求職者のマッチングを行っています。2024年度後半の「業務体験・面談会」は、12月10日に吉田キャンパス、12月18日に宇治キャンパス、12月23日に桂キャンパスの3か所でそれぞれ開催しました。吉田キャンパスでは16名、宇治キャンパスでは5名、桂キャンパスでは6名の求職者の参加がありました。各キャンパス共通プログラムの1部では、京都大学について概要説明と採用予定部局の職場紹介・質疑応答、本学の障

害者雇用で働く職員の話がありました。2部の業務体験では、参加者は軽作業(資料封入・発送業務)と事務作業を体験しました。3部では、吉田キャンパスの事務系希望の参加者は採用予定部局の担当者も交えてグループディスカッションを、労務系希望の参加者は採用予定部局の担当者と面談を行いました。宇治と桂キャンパスでは採用予定部局の担当者と面談を行いました。また待ち時間には事務作業(文章記載)を行いました。「業務体験・面談会」後の選考の結果、8名の参加者が職場実習へ進むことになりました。

就労支援フォーラム NIPPON2024

日本財団主催の「就労支援フォーラム NIPPON2024 Ctrl+Alt+Del (再起動)～これまでの常識を進化させるいくつかの非常識～」が、2024年12月14日から15日の2日間に渡って東京ビッグサイトにて開催されました。14日のプレゼンテーションでは、当室の濱野康子副室長が「京大式障害者雇用」についての発表を行いました。また、当室の指導員2名も研修と

して一般参加しました。

発表は、一般就労の職場の立場で「働くということ」をテーマにしました。参加者の事業所形態にかかわらず、「就労支援の基本は、働くということとはどんなことを伝えること」だという考えは伝わったと思います。「京大式障害者雇用」を全国にアピールする良い機会になりました。(業務支援室副室長 濱野康子)

部局で働く障害者雇用職員のリレーエッセイ「働くこと」〈3〉

H.Y. (南西地区共通事務部 事務補佐員)

● 障害について

私の障害は ASD (自閉症スペクトラム障害) です。特性として、少しこだわりが強く、あいまいなことが苦手で、過集中があります。

● 就労までの経緯

就労移行支援事業所に通所して、清掃、内職などの軽作業やプログラム (自己理解や社会スキル) で、働くための基礎作りをしました。短期実習から初めて、長期実習 (2 週間程度) にチャレンジをしました。事務職が自分に合っていると感じたので事務系でも実習に行きました。途中、うまくいかないこともありましたが、2022 年 10 月の業務支援室主催の職場体験・面談会に参加して、京都大学に採用となりました。

● 職場環境

私の職場の南西地区共通事務部の事務室は人数が多いところです。いくつかの部署がまとまった大部屋ですが、基本静かめですが、適度に会話や雑談もあって過ごしやすい感じです。周りも研究施設が多いので、全体的に落ち着いた雰囲気のある場所です。

● 担当業務

私の仕事は主に伝票の作成で、毎月、研究室から購入した物品 (研究用の試薬・材料) などの請求書が送られてくるので担当している経費ごとに伝票を作って支払う仕事です。高額な物品の購入や修理の事務発注では、業者へ発注の連絡もしています。

● 業務内容 (量・質) の変化

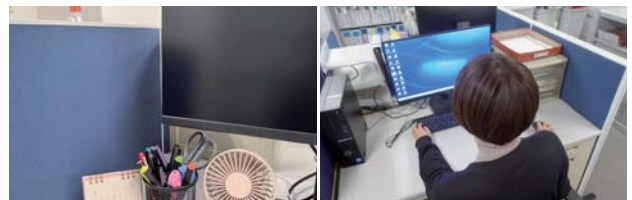
始めは他の職員のサポート業務がメインでした。繁忙期の伝票作成の手伝いや処理後の伝票のファイリングなどです。部署が忙しい時と暇な時とで仕事量の差がかなりあり、支払い締日後は伝票の量がぐんと減って、手の空く時間が増えてしんどかった時がありました。その時はすぐに相談をしました。業務量の調整をもらい、少しずつ担当の仕事を任せてもらえるようになり、責任は増えましたが、やりがいを持って働くことができるようになりました。今でも手の空く時間はありますが、忙しい時期もあり、そのバランス調整として受け止めています。

● 職場の合理的配慮

よく似た伝票が多いので間違えないように、手順の書かれたラベルを処理するファイルに貼るなど、見て

わかる工夫をしてもらっています。耳からだけの情報と曖昧なことが苦手なので、指示はできるだけメールや書面でお願いしていますが、口頭指示の場合はできるだけ具体的に伝えてもらうようにしています。

他には、働き始めの座席位置は、人の往来の多い場所で、音や視線が気になって集中ができなかったので、パーテーションの設置をお願いしました。これはすごく楽になりました。席の位置移動をお願いしていたのですが、職場の事情もあり、実現したのは 1 年半ほど経ってからです。配慮は、職場との話し合いで決めるので、すぐに、また全部が通るわけではないけれど、働きにくいと感じることは遠慮しないで相談することや、諦めないことも大切です。



● 仕事に必要なスキル、2 年間続けられた理由、今後の目標

仕事を続けるうえで大切だと思うことは、「相談すること」です。しんどいな、困ったなと思った時に、小さな悩みでも、すぐに上司や支援者、京都大学では業務支援室に相談して、その時に解決して持ち越さない事が、長く仕事を続ける上でとても大切です。私は障害特性で過集中があるので、気づいた時には疲れが溜まりすぎてしまっていたり、疲れやしんどさに気づきにくかったりするので、休憩は時間を決めて取ることも意識しています。前職では相談する程ではないかなと思って、頑張ってしまうとしんどくなって、体調を崩すことを繰り返していました。細かな相談を心がけて周りを頼る今の働き方が、体調を安定させ 2 年間仕事を続けてこられた一番大きな理由です。

今後の目標は、長く働き続けるため、自分のできることを増やしていく、ステップアップすることです。

● 就職を目指す皆さんへのアドバイス

最後になりますが、新しい職場で働くとなったら、はじめは分からないこと、出来ないことがたくさんあると思いますが、段々とそれは減っていくので、焦らず自分のペースで頑張ってください。

私の リフレッシュ 方法〈2〉

「私のリフレッシュ方法」では、本学で働く障害のある職員のリフレッシュ方法を順番に紹介していきます。

第2回目は、人事部のF.T.さんの「猫の写真を撮る」です。



僕は猫がとても好きです。そして写真を撮ることも好きです。ならば、「猫の写真を撮る」というのが趣味になるのは当然の帰結です。たまに猫ちゃんたちとも交流をして心を癒しています。

掲載しております写真は「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。あなたが主役の写真展 2024」という富士フィルムが主催している参加型展示会に出展したもので、その中で「心に響いた100選」に入選したものです。

写真の大きな魅力は、写っているものは現実にあった瞬間であり、世の中こんな面白い瞬間が実は至るところに転がっていることに気づくことです。これだけはAIには表現できない魅力です。

F.T. (人事部 支援職員)

お知らせ

12月に、当室より毎年恒例の手作りクリスマスメッセージカードを2024年に業務を依頼された部署へ送付しました。



ポコアポコ 不定期連載 作 ハルちゃん

ハルちゃん
京大の障害者雇用で働いている。

ピコ吉
ハルちゃんの支援員。

② 休けい



京都大学業務支援室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL : 075-753-2063 FAX : 075-753-2069
<https://gyoumu-shien.adm.kyoto-u.ac.jp>



ホームページ

